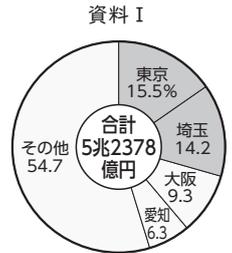


### 1. 臨海部から発達した京浜工業地帯

- (1) 資料Ⅰは印刷業の出荷額です。京浜工業地帯で印刷業が盛んな理由を、下の図に三つ記入してまとめてみよう。



印刷業が盛ん

- 新聞や雑誌の読者が多い。
- 多くの情報が集まる。
- 書店や自宅に届ける際の効率が良い。

- (2) 資料Ⅱに  で示した都市は食品工業が盛んな都市です。人口の多い関東地方で食品工業が盛んな理由を考えてみよう。

(例) ビールやジュースなどの重くて輸送費がかさむ飲料や日持ちのしないパン・生菓子などの生産は、消費地に近い方が有利なため。

- (3) 東京湾の臨海部で石油化学工業が盛んな理由を考えてみよう。

(例) 原料の輸入や製品の輸出に適しているから。



### 2. 北関東への工場進出と流通の変化

- (1) 北関東工業地域の工場の変化を示した資料Ⅲを見て、この地域の変化を読み取ってみよう。

(例) 小さな繊維工場が多かったが、市街地が拡大し、その郊外に規模の大きな機械工業の工場ができた。

- (2) なぜこのような変化が起こったのか、教科書の本文からまとめてみよう。

(例) 元々繊維などの工業が盛んであったところに、東京近郊の人口増加による工業用地が不足してきたため。



#### 本時のまとめ

◆ 東京大都市圏への人口の集中が、京浜工業地帯と北関東工業地域に与えた影響について説明しよう。

(例) 多くの人々の消費を支えるため、東京都や周りの県に工場が立地し、京浜工業地帯へと発展した。また、住宅地不足や公害などが発生したことで内陸への工場進出が進み、北関東工業地域が形成された。